

令和3年度(2021年度)英語教育指標達成に向けた学校の取組例

本県では、自分の住んでいる地域や郷土熊本に誇りをもち、多様な文化をもつ人々と英語で考えや気持ちを伝え合う児童生徒の育成を目指しています。

そこで、熊本県教育大綱及び第3期くまもと「夢への架け橋」教育プランに英語教育の充実を掲げ、指標として中学校3年生のCEFR A1レベル(英検3級相当)以上の取得率を令和5年度までに40%とすることを目指しています。

指標達成に向けては、県内の学校で、様々な取組が進められておりますので、その一部をご紹介します。是非、各学校における今後の取組の参考としてご活用ください。

宇城市立 小川中学校	〈啓発〉 本校では、英検についてその内容や趣旨を授業時に説明を行い、受験を促している。申し込みの際には早めに全校生徒へ日時等を伝え、対策等のアドバイスを行う。学校図書に英検の問題集を置き、各自で勉強できるようにしている。3年生については、受験料の補助があることを生徒に伝えた。 〈取組〉 学校図書の問題集を活用することを勧め、生徒からの質問がある際には個別に指導を行う。2次検査の対策は、生徒の必要に応じて行った。GTECに関しては、意欲が高まるように受験のしかたを丁寧に説明した。授業では、より実践的な英語の使用場面や目的を意識して学習活動を行った。 〈成果〉 ・英検を受験する生徒が増え、受験級の合格を目指して意欲的に学習する生徒が増えた。 ・不合格であった生徒も、次回の受験で合格を目指したいと前向きになった。 ・GTECの結果を受けて、英検受験への関心が高まった。
和水町立 菊水中学校	〈啓発〉 年度当初に「和水町中学校英語検定チャレンジ補助金」と中学3年生の英検全員受験の説明を行った。また、英検ウィークを設定し、代議委員会による英検受験への呼びかけ、朝自習や給食時の放送を行い、学校全体での雰囲気作りを行った。更に、PTA全体会等で校長から検定料の助成金の説明や学校総体としての英検受験への手立て等を説明した。英語の授業でも英検情報の提供や受験に向けてのスケジュールの確認、英語での対話などで二次試験での面接も意識できるようにした。 〈取組〉 ①英検1週間前からの英検ウィークの設定、朝自習での英語学習 ②英語の授業での英検の学習 ・タブレットに英検HPをリンクして、受験する級の過去問の練習 ・タブレットでのリスニングの練習 ③学力充実タイム、英作文対策 ④放課後30分間の英検学習(希望者のみ) ⑤二次試験対策 ⑥地域未来塾での英語学習 〈成果〉 3級以上合格を目指して取り組んだことで、語彙力の強化や英作文対策、長文の読解などに多くの生徒が意欲的に取り組むようになった。また、3年生が全員受験を行うことで、1、2年生への英語学習への目標設定や積極的な授業への参加につながっている。特に英語に興味のある生徒を中心に、英検受験に関する目標を各自で設定し、取り組む姿勢が見られるようになった。
菊陽町立 武蔵ヶ丘中学校	〈啓発〉 本校では、校内に英検受験申込に関する情報を掲示するとともに、授業や給食時間の放送時において呼びかけを行った。また、検定コーナーを設置し、過去の問題等や英検参考書などを閲覧できるように資料を整えた。 さらに、中3生徒については受験料が町費補助となることを生徒に伝え、併せて保護者にも通知文を出して伝えた。 〈取組〉 ○授業時に3級レベルの英作文の練習を実施した。 ○3級レベルの文法や語彙が定着するように単元テストなどを実施した。 ○2次対策として、1次試験合格者を対象に昼休みや放課後などに、個別の面接指導を実施した。 〈成果〉 今回合格した生徒は、自信につながり、授業においてさらに積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。また、不合格だった生徒も、自分に足りない力を確認することができ、次の試験に向けて苦手を克服しようと意欲を高めていた。

南小国町立 南小国中学校	〈啓発〉 本町では国際人としてのツールとなる英語力の育成のため、南小国町が英検費用を負担して「英語検定補助事業」を実施している。2回目までの検定料を町が負担することにより、全校生徒に受験の機会が均等に与えられている。保護者には4月に生徒を通じて文書で知らせている。また、校内に受験日程ポスターを掲示している。この事業が今年で5年目となる。基本的に3年生が3級、2年生が4級、1年生が5級を全員受験する。毎年行っているので、「3年生になったら3級を受験する」という意識が生徒の中にはある。 〈取組〉 3年生は受験シーズンを避けるため、第2回目の受験日に3級を受験する。対策としては、リスニング問題や長文問題を2回程度行う。英作文については、授業中も書く活動を多く取り入れることで苦手意識を克服できるようにしている。面接練習では、ALTが1対1で指導を行う。一人2回程度面接の練習を行う。 〈成果〉 本事業が開始され5年目となり、「3年生の3級合格率50%を目標とし達成している」ことを1・2年生へ伝えることで「次は自分たちも」という意識につながっている。
産山村立 産山学園	〈取組〉 ・本校では「特色ある教育課程」の一環として早期英語教育に取り組んでいる。1年生から9年生まで英会話科の学習を位置づけている。3年生・4年生・5年生は英検ジュニアを、6年生・7年生・8年生・9年生は年に3回英検を受験している。検定に向けて問題集を配布して学習に取り組ませるとともに、個別支援を行っている。 ・検定料については、村から補助される。 ・3級以上の2次試験対策については、1週間ほど英語科・ALTで模擬面接等の対策を行い、個別支援を実施する。 〈成果〉 ・英検準2級・3級合格など明確に目標をもって主体的に学習に取り組む姿が見られた。 ・ライティング問題については個別指導を行い、構成を考えてまとまりのある文を書く力が高まった。 また、不合格だった生徒にも結果から課題を洗い出し、次の受験に対して、重点的にアドバイスを行うことで、個に応じた学習につなげることができた。
南阿蘇村立 南阿蘇中学校	〈啓発〉 ■目標の明確化 ○英語担当者及び学級担任が、授業や学級の中で英検受験について呼びかけを行った。 ○アンケートを実施し、生徒自身が受験する級を設定することで、一人一人の目標を明確にした。 ○自治体が英検受験料を全額補助することを伝え、生徒全員が受験できることを確認した。 〈取組〉 ■授業の中で ○既習事項の定着を図る活動や基礎基本の徹底のためのドリル活動を定期的実施する。 ○授業の初めに、過去問や英作文、コミュニケーション活動を実施する。 ○学習内容を使った英作文やコミュニケーション活動を、単元を通して実施する。 ○単元終末では一人一人が、「何ができるようになったのか」を明らかにし、自らの学びを振り返る時間を確保する。 ○CAN-DOリストを意識し、生徒の到達状況を把握する。 ■授業以外の時間で ○英検の一次試験合格者に対して、映像教材を活用するとともに、ALTや複数の英語担当が、個別に繰り返し二次試験対策を行う。 〈成果〉 ○合格した生徒は自信につながり、英語の授業にさらに積極的に取り組んでいた。 ○次回の英検受験では、もっと難しい級を受験しようと意欲を見せる生徒が増えた。 ○多くの生徒が、英検の結果が返却されるのを楽しみにしていた。 ○単元ごとにテーマに合った内容の英作文を書く活動を取り入れたことで、自分のことや自分の思いを伝えるためのライティング力向上が見られた。
西原村立 西原中学校	〈啓発〉 本校では、校内に英検受験申込に関する情報を掲示するとともに、職員室に各級の英検問題集を揃えている。生徒は、この問題集をいつでも借りられるようにしている。さらに、中学3年生については、受験料が全額補助となることを伝え、家庭にも文書を通じて伝えた。 〈取組〉 英語の授業の中(数回)で英検の過去の問題等を扱って、自分の受験するのに適した級を選ぶようにした。受験する級は、生徒自身が選べるようにすることで目標を持って学習に取り組んだ。 二次試験対策として、英語科教員とALTで面接練習を行った。面接練習は個別に複数回設定し、前回指摘したことを踏まえた弱点補強を行い、慣れるまでくり返し行った。 〈成果〉 試験日が近づくと休み時間に勉強する生徒や、問題集を借りに来る生徒も増えて積極的に取り組むようになった。

芦北町立 田浦中学校	〈啓発〉 ・本校には英語ルームがあり、英検対策の問題集を設置し、過去の問題等を自由に閲覧できるようにしている。 ・全学年の生徒たちが英検を公費で年1回受験できることを、年度初めに伝えた。 ・生徒と個別に話をし、各生徒に合った高い目標を持たせ、受験級を設定するようにした。 〈取組〉 ・週4回、昼休みに20分程度、希望者に対して学習指導を行った。 ・生徒が家庭で問題に取り組んで提出したものを、教師が採点し、返却をした。 ・その後、生徒は間違った問題を辞書等を使って調べたり、教師による解説を聴いたりした。 ・受験時期に合わせて、計画的に練習問題に取り組むようにした。 〈成果〉 ・個別に話し、高い目標を持たせることで、普段の授業への取り組む姿勢も意欲的だった。 ・合格した生徒、また不合格だった生徒の中にも、さらに自費で受験する者がいて、意識の高まりが見られた。 
津奈木町立 津奈木中学校	〈啓発〉 ・本校では、校内に英検受験申込みに関する情報を掲示するとともに、授業や学級において呼びかけを行った。 ・英語専用教室(英語ルーム)には、問題集や過去の問題を用意し、生徒がいつでも利用できるようにしていた。 ・職員室前に検定コーナーをつくり、各級の合格者を掲示した。 ・津奈木町の生徒は英検受験料が全額補助となることを生徒に伝え、併せて保護者にも通信等を通じて伝えた。 〈取組〉 ・準2級、3級、4・5級の3クラスに分け、習熟度別に対策を行った。 ・県作成の3級対策問題を活用した。 ・ALTが中学校に常駐しているため、二次対策の面接練習をALTと行うことができた。 ・普段の授業で、毎時間書く活動を取り入れた。生徒の書いた英作文は、必ずALTがチェックし、フィードバックを行った。 ・月ごとにALTが英語ルームの掲示を作りかえることで、常に英語文化に触れる手立てを行った。 ・月1回、English Dayを設定し、朝の生徒の放送、職員室に入る際の生徒の挨拶(他教科の先生方も英語で挨拶)、昼休みのALTのアクティビティなど、学校全体で英語学習への意欲を高める取組を行った。 〈成果〉 出席停止中の生徒以外、全生徒が英語検定を受験した。準2級や3級に合格した生徒が刺激となり、学級全体の学習意欲が高まった。スローラーナーたちも一生懸命に英語を書く姿が見られるようになった。その結果、学年の56%の生徒が3級以上を取得することができた。  

山江村立
山江中学校

〈啓発〉
新学期に入りすぐに、英検受験の申込期間、受験日、受験料に関する情報を校内数力所に掲示した。その上で、各学年に以下の英検取得目標等を示した。
①1年生は第3回までに5級、2年生は第3回までに4級、3年生は第2回までに3級を取得する。
②3級については二次試験の面接で英問英答が行われるため、リスニング力とスピーキング力を高める。
③中学校卒業時における英検3級の目標取得率は、熊本県は40%、山江村60%とする。(昨年度の3年生の実績は31.7%であった。自分が3年生卒業時に何級を取得しているか、自分の学年は全体で何%達成するかを意識させる。)
山江村では年3回の英検のうち1回分の受験料を負担するなど、中学生の英語力向上のために予算が計上されていること、また、英検3級取得者は夏季休業中にシンガポールでの語学研修に参加する権利を有することや3級を取得しておくことは、高校受験や夢を実現させるためにも有益であるということを伝えた。

〈取組〉
①地域未来塾(年間20回)において、生徒の受験希望級ごとに、外部指導者による学習会を行った。
②英検3級受験日の2～3週間前から昼休みと放課後を使って、ライティング練習を行った。また、3級一次合格者は一次合格発表後すぐに昼休みと放課後に面接練習(JTEとALTで個別に対応)を行った。内容は過去問題や予想問題集を用い、各生徒のレベルに合わせて回数を調整した。
③授業中の文法理解や活用の場面で、英検によく出題される内容についての紹介をした。
④可否発表表について、一人一人それぞれの観点の取得点数と合格点数を比較しながら、次への励ましの言葉かけをして知らせた。

〈成果〉
生徒たちが、それぞれの目標に向かって真面目に学習に励み努力できたことにより目標が達成され、その結果が次の目標や取組につながった。目標を達成できなかった生徒は諦めるのではなく、その悔しさを次のやる気につなげることができた。今年度は3級取得者が全体の30%、準2級取得者が全体の20%おり、今後高等学校での更なる目標につながっていくと思われる。
また、今年度は、地域未来塾での英検取得に的をしぼった取組が行われたことや、少人数加配によりきめ細かな学習指導や支援ができたこと、さらに、ALTの常時勤務により計画的な生徒への対応が充実していたことが成果につながったと思われる。

五木村立
五木中学校

〈啓発〉
4月の英語科授業オリエンテーション時に、プレゼンテーションを使い、英検3級合格を目指すことの意義や、五木村の援助により無料で受験できること等を説明した。
英検合格には、英語学習に興味・関心を持たせることが重要であると考え、校内の掲示板に英検コーナーを設け英検の日程や過去の問題、二次面接の流れ等を掲示し意欲付けを行った。他にもEnglish コーナーを設けて、英語の勉強法、生徒の作品、英字新聞等を掲示し、英語学習への意欲付けを行った。

英検について

- ・3級(3年生修了程度)
- ・4級(2年生修了程度)
- ・5級(1年生修了程度)
- ・受験料・・・無料(村の補助)
- ・問題集・・・貸出

英検についてのプレゼンテーションスライド

英検コーナーの掲示物

英語コーナーの掲示物

〈取組〉
本校は、年3回英検を実施している。村から英検受験料の全額補助を受けており、3回とも無料で受験できる。そのため全員が受験する体制が構築できている。問題集も2級から5級まで貸し出しを行っている。
本校の教育課程や年間行事計画にも英検を受験することを明示しており、その上で、普段の授業の中でも模擬テストを実施している。英検を実施する週は、特別に放課後学習会を実施している。
また、その際にはALTも二次試験対策に参加し、細やかに指導している。このALTは、五木村教育委員会職員として勤続13年目のベテランで、日本語の理解度も高く、本校生徒の実態をよく理解している。本校生徒からも慕われており、とても丁寧な指導ができる。本校の英語指導には欠かせない存在である。
さらに、実際の英検は放課後に実施するが、複数の試験監督が必要になる他、時間割や日程、帰りのスクールバス時刻の調整等が必要不可欠である。本校は、職員の協力体制が整っており、学校総体で英検に取り組む環境も整備できている。

〈成果〉
令和2年度は、3級に3年生3人(合格率60%)、2年生1人、4級に2年生5人(同100%)1年生3人、5級に1年生10人(同100%)が合格した。
令和3年度は、準2級に2年生1人、3級に3年生3人(同60%)2年生5人、4級に2年生9人(同90%)、1年生4人、5級に1年生6人(同100%)が合格した。
また、1年生2人が5級で満点をとり、満点賞を受賞した。ここ数年は生徒全員が5級以上を取得している。受験者が多く、英検協会から毎年奨励賞をいただいており、令和2年度、3年度は、取得者が多い学校に送られる優秀団体賞を受賞した。

英検 取得率 (R2)	英検 達成率 (R2)	英検 取得率 (R3)	英検 達成率 (R3)
3級 60%	80%	60%	80%
4級 100%	80%	90%	70%
5級 100%	90%	100%	100%

奨励賞の賞

優秀団体賞

令和2年度 団体賞

多良間中学校
平家中学校
五木中学校
西郷中学校
西郷中学校
大瀬戸中学校
越知中学校
山田中学校

豊平中学校 千秋分校
十川中学校
札幌市立上井原中学校 豊成分校
東京都立両国高等学校附属中学校
習子中学校
田太小中学校
上井美中学校
上小瀬中学校

優秀団体賞の賞